

(4) 年最高潮位の発生状況

茨城沿岸では、茨城港大洗港区、鹿島港で潮位観測が実施されている。年最高潮位の経年変化を図 2.10 に示す。茨城沿岸の中央に位置する茨城港大洗港区では、平成 18 年（2006 年）10 月 7 日に本州東方沖の海上で発達した大型の低気圧を要因として T.P.+1.47m の最高潮位が観測されている。写真 2.6 に、大洗港最高潮位時の越波、浸水状況を示す。

年最高潮位の変化については明確な傾向は認められないが、近年、気候変動に伴う平均海面水位の上昇や台風強度の高まりによる潮位偏差の増大等による沿岸地域への影響も懸念されているため、今後も観測を継続し、長期的な傾向を把握していく必要がある。

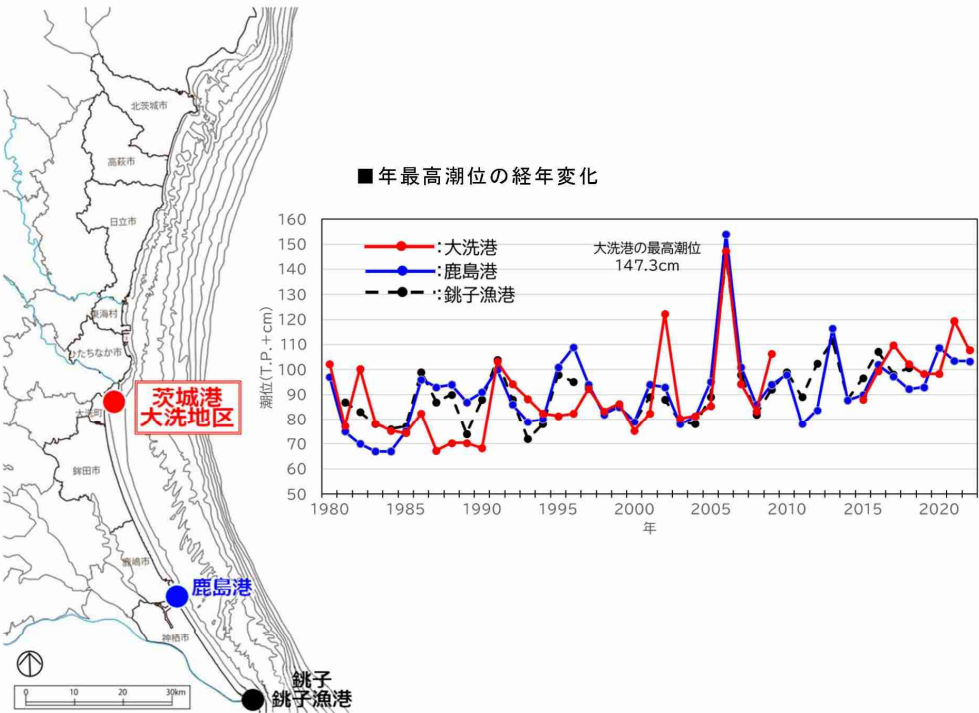


図 2.10 茨城沿岸の年最高潮位の経年変化

（荒野地区海岸 鹿嶋市）
【平成 18 年（2006 年）10 月 7 日の高潮時】

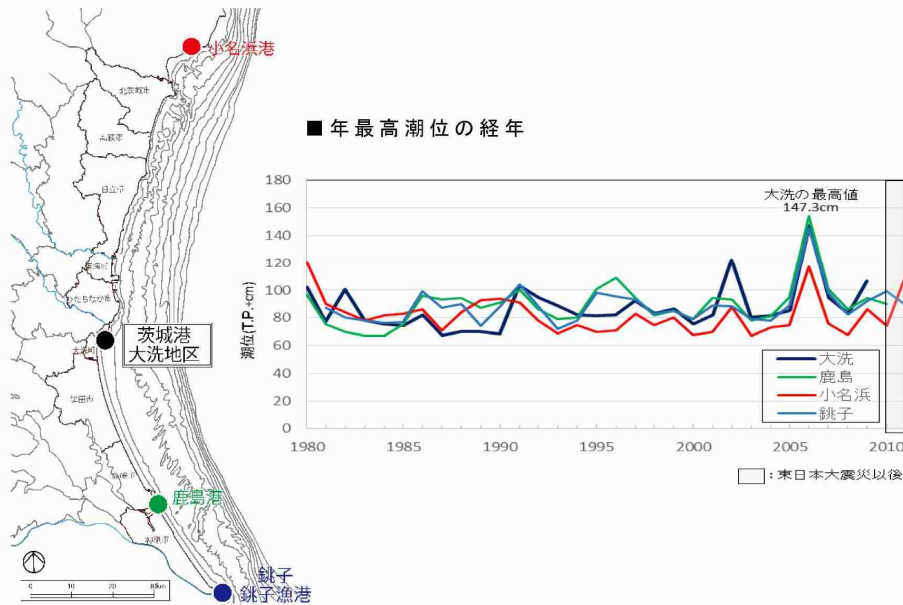


写真 2.6 大洗港最高潮位時の越波、浸水状況

(4) 異常潮位の発生状況

茨城沿岸周辺では、小名浜港(福島県)、茨城港大洗港区、鹿島港、銚子漁港(千葉県)で潮位観測が実施されている。年最高潮位の経年変化を図 2.10 に示す。茨城沿岸の中央に位置する茨城港大洗港区では、平成 18 年(2006 年)10 月 7 日に本州東方沖の海上で発達した大型の低気圧を要因として T.P.+1.47m の最高潮位が観測されている。写真 2.6 に、異常潮位時の越波、浸水状況を示す。

年最高潮位の変化については明確な傾向は認められないが、近年、地球温暖化に伴う海面水位の上昇等による沿岸地域への影響も懸念されているため、今後も観測を継続し、長期的な傾向を把握していく必要がある。



※2011 年のデータは、東北地方太平洋沖地震による地盤沈下の影響を含んでいる。

図 2.10 茨城沿岸周辺の年最高潮位の経年変化

（荒野地区海岸 鹿嶋市）
【平成 18 年(2006 年)10 月 7 日の高潮時】



写真 2.6 異常潮位時の越波、浸水状況

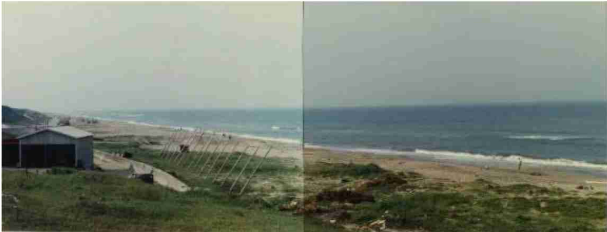
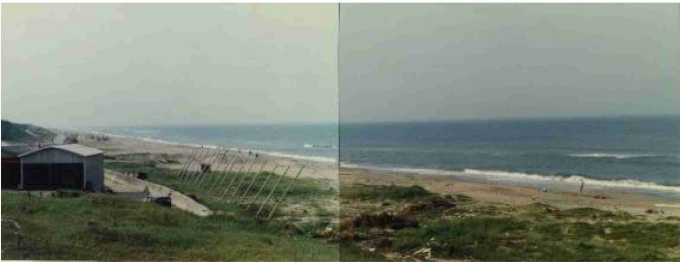
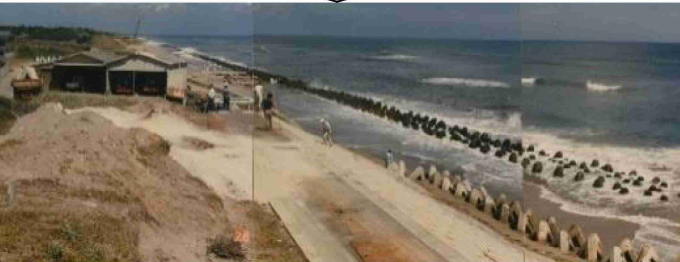
改定案（R8.3）		改定前（H28.3）	
1	(5) 侵食の現状	1	(5) 侵食の現状
2	① 砂浜海岸における海岸線の変化	2	① 砂浜海岸における海岸線の変化
3	茨城沿岸では、ひたちなか市から北側に海食崖や岬、港に挟まれた砂浜が散	3	茨城沿岸では、ひたちなか市から北側に海食崖や岬、港に挟まれた砂浜が散
4	在し、大洗町から南側に鹿島台地、波崎砂丘を背後に控える長大な砂浜がある。	4	在し、大洗町から南側に背後に鹿島台地、波崎砂丘を控える長大な砂浜がある。
5	砂浜海岸の多くが河川からの土砂供給の減少や沿岸開発に伴う大規模構造物の	5	砂浜海岸の多くが河川からの土砂供給の減少や沿岸開発に伴う大規模構造物の
6	設置による沿岸漂砂の不均衡などの要因で侵食傾向にあり、既に砂浜が消失し	6	設置による沿岸漂砂の不均衡などの要因で侵食傾向にあり、既に砂浜が消失し
7	ている海岸もある。	7	ている海岸もある。
8	特に、茨城沿岸南部的那珂川から利根川に至る海岸（以下、「鹿島灘海岸」と	8	特に、茨城沿岸南部的那珂川から利根川に至る海岸（以下、「鹿島灘海岸」と
9	いう）は、全国有数の規模を誇る砂浜海岸であるが、昭和 50 年代後半から急激	9	いう）は全国有数の規模を誇る砂浜海岸であるが、昭和 50 年代後半から急激に
10	に侵食が進行したため(写真 2.7), 全国に先駆けてヘッドランド工法(人工岬)	10	に侵食が進行したため(写真 2.7), 全国に先駆けてヘッドランド工法（人工岬）
11	による侵食対策が進められてきた。ヘッドランドを設置したことにより、侵食	11	による侵食対策が進められてきた。ヘッドランドを設置したことにより、侵食
12	速度を大幅に低下させることができたが、海岸全体の土砂移動は依然として続	12	速度を大幅に低下させることができたが、海岸全体の土砂移動は依然として続
13	いていることから、一部では砂浜の減少が著しい区間も存在する。	13	いていることから、一部では砂浜の減少が著しい区間も存在する。
14	また、茨城沿岸における近年の海岸保全施設の被災は、緩傾斜護岸が多くを	14	また、茨城沿岸における近年の海岸保全施設の被災は、緩傾斜護岸が多くを
15	占めている。これは、近年の侵食により、堤体の安定に必要な前浜が不足し被	15	占めている。これは、近年の侵食により、堤体の安定に必要な前浜が不足し被
16	災するパターンであり、先般の東日本大震災に起因する地盤沈下の影響が残る	16	災するパターンであり、先般の東日本大震災に起因する地盤沈下の影響も含め、
17	なか、気候変動による平均海面水位の上昇や、台風強度の高まりに伴う波浪の	17	今後も同様な被災が多発することが懸念される。
18	変化による影響も懸念され、今後も同様な被災が多発することが考えられる。	18	図 2.11 に砂浜の侵食が顕著な海岸を示す。北茨城市の神岡上地区海岸では
19	図 2.11 に砂浜の侵食が顕著な海岸を示す。北茨城市の神岡上地区海岸では	19	砂浜がほぼ消失し、日立市の河原子港海岸、鉾田市の上釜地区海岸、大竹地区
20	砂浜がほぼ消失し、日立市の河原子港海岸、鉾田市の上釜地区海岸、大竹地区	20	海岸、鹿嶋市の荒野地区海岸では、緩傾斜護岸の法先の露出や表法被覆工の被
21	海岸、鹿嶋市の荒野地区海岸では、緩傾斜護岸の法先の露出や表法被覆工の被	21	災が生じた。その他、日立市の多賀地区海岸、大洗町の磯浜地区海岸では、砂
22	災が生じた。その他、日立市の多賀地区海岸、大洗町の磯浜地区海岸では、砂	22	丘前面の砂浜が減少したことにより浜崖が発生している。
23	丘前面の砂浜が減少したことにより浜崖が発生している。	23	
24	(神向寺地区海岸 鹿嶋市)	24	(神向寺地区海岸 鹿嶋市)
25		25	
26		26	
27		27	
28		28	
29		29	
30	撮影：昭和 55 年（1980 年）7 月	30	撮影：昭和 55 年(1980 年)7 月
31		31	
32		32	
33		33	
34		34	
35		35	
36	撮影：昭和 61 年（1986 年）8 月	36	撮影：昭和 61 年(1986 年)8 月
37	写真 2.7 急激に侵食が進行した鹿島灘海岸	37	写真 2.7 急激に侵食が進行した鹿島灘海岸
38	21	38	21



図 2.11 侵食が顕著な海岸

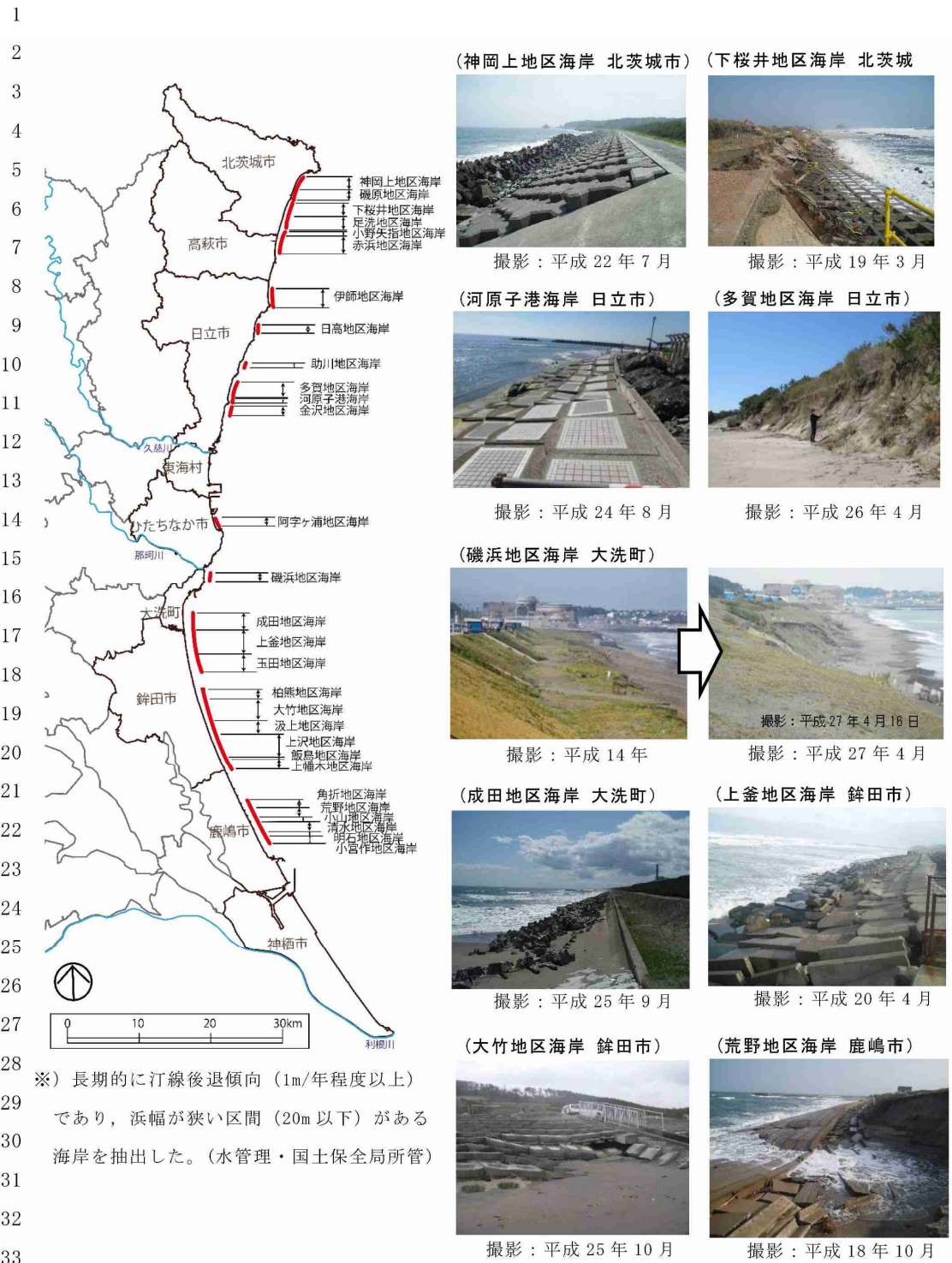


図 2.11 侵食が顕著な海岸

大規模な遮蔽域を形成する構造物のある海岸では、汀線が前進しているが、その反面、隣接した海岸では侵食が進むといった砂浜の偏在化が生じている(写真 2.8)。



写真 2.8 大規模構造物周辺の堆砂と侵食

② 崖海岸における海岸線の変化

図 2.12 に崖海岸の侵食状況を示す。茨城沿岸北部の北茨城市、高萩市、日立市の海岸では、崖侵食が進行しており、一部区間では、崖の崩落も発生している。

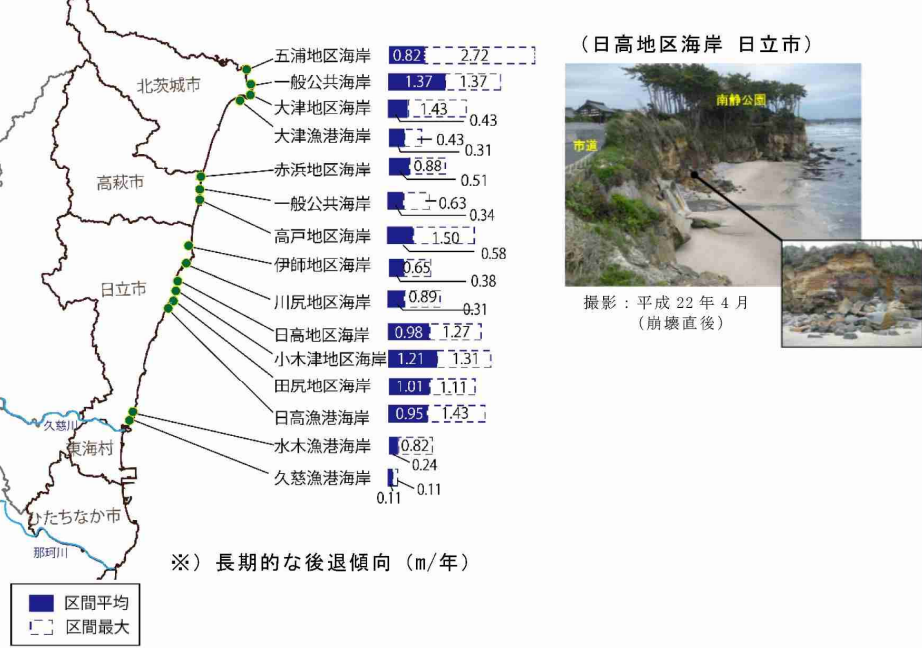


図 2.12 崖海岸の侵食状況

出典：「茨城県沿岸における海岸特性報告書」（茨城県・茨城大学，平成 9 年 3 月）より作成。

大規模な遮蔽域を形成する構造物のある海岸では汀線が前進しているが、その反面、隣接した海岸では侵食が進むといった砂浜の偏在化が生じている(写真 2.8)。



写真 2.8 大規模構造物周辺の堆砂と侵食

② 崖海岸における海岸線の変化

図 2.12 に崖海岸の侵食状況を示す。茨城沿岸北部の北茨城市、高萩市、日立市の海岸では崖侵食が進行しており、一部区間では、崖の崩落も発生している。

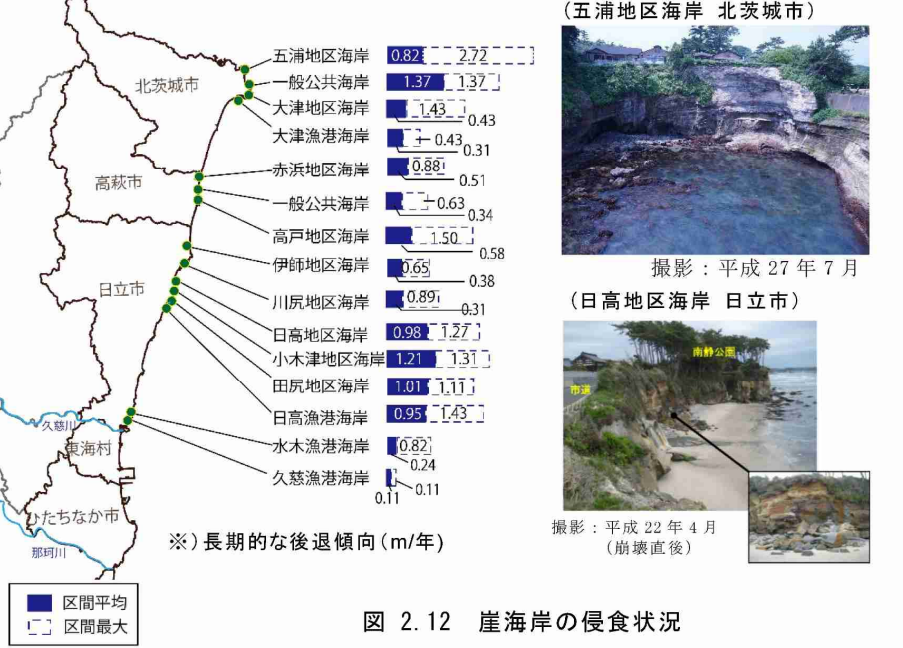


図 2.12 崖海岸の侵食状況

出典：「茨城県沿岸における海岸特性報告書」（茨城県・茨城大学，平成 9 年 3 月）より作成。

③ 侵食要因

【砂浜侵食の要因】

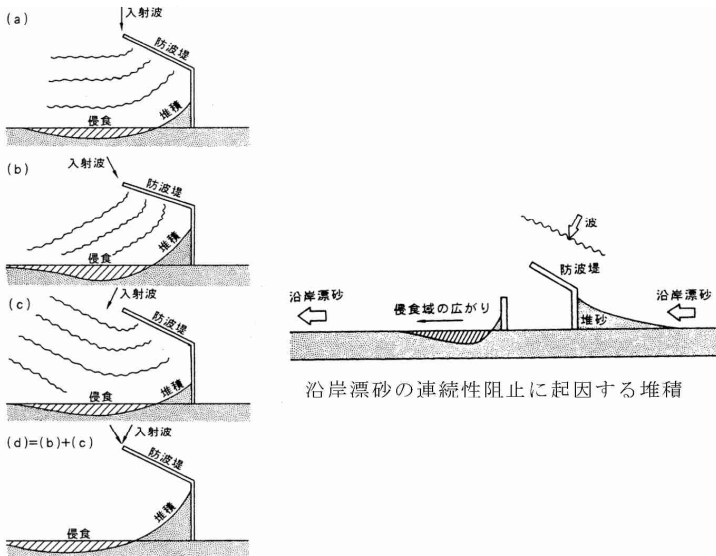
茨城沿岸で発生している侵食は、以下のメカニズムが原因と考えられている。

- ・ダムなどによる河川からの土砂供給の減少／過去の砂利採取
- ・大規模構造物の遮蔽域への砂の移動／沿岸漂砂の遮断／港内浚渫
- ・背後への飛砂による消失
- ・波浪外力の増大
- ・東日本大震災に伴う地盤沈下

また、気候変動による平均海面水位の上昇や台風強度の高まり、波浪の変化による影響は、上記の侵食原因を加速させることが懸念される。

茨城沿岸南部の鹿島灘海岸では、那珂川や利根川からの土砂供給量の減少や大規模構造物の遮蔽域への砂の移動、沿岸漂砂の遮断などにより侵食が生じ、茨城港大洗港区～鹿島港間は土砂供給が枯渇している状態である。また、北部の砂浜でも、同様なメカニズムにより、砂浜の偏在化が生じている海岸がある。

図 2.13 に、茨城沿岸でみられる主な侵食要因の模式図を示す。



防波堤による波の遮蔽域形成に伴う堆積

図 2.13 主な侵食要因の模式図

出典：「海岸侵食の実態と解決策」（宇多高明著；山海堂，平成 16 年 5 月）

【崖侵食の要因】

崖侵食は、波浪の営力により長期的に引き起こされるものの、砂浜侵食の要因と同様に、土砂供給減少による前浜の消失、前面水深の増大による作用外力の増大、地震動による崖面の崩壊等の影響も考えられる。東日本大震災の強振動による崖面の小崩落や緩み、地盤沈下による崖侵食の進行も確認されている。

③ 侵食要因

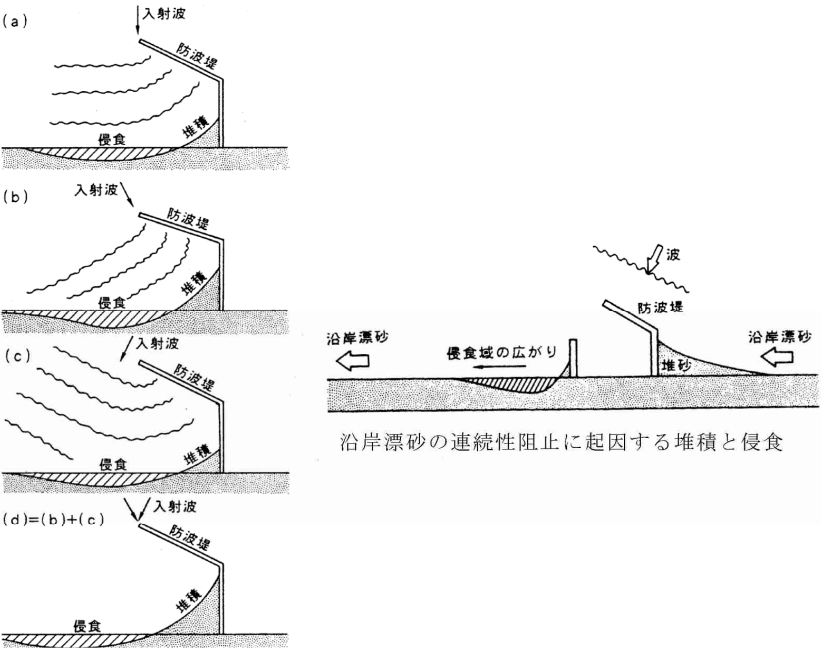
【砂浜侵食の要因】

茨城沿岸で発生している侵食は、以下のメカニズムが原因と考えられている。

- ・ダムなどによる河川からの土砂供給の減少／過去の砂利採取
- ・大規模構造物の遮蔽域への砂の移動／沿岸漂砂の遮断／港内浚渫
- ・背後への飛砂による消失
- ・波浪外力の増大
- ・東日本大震災に伴う地盤沈下

茨城沿岸南部の鹿島灘海岸では、那珂川や利根川からの土砂供給量の減少や大規模構造物の遮蔽域への砂の移動、沿岸漂砂の遮断などにより侵食が生じ、茨城港大洗港区～鹿島港間は土砂供給が枯渇している状態である。また、北部の砂浜でも、同様なメカニズムにより、砂浜の偏在化が生じている海岸がある。

図 2.13 に、茨城沿岸でみられる主な侵食要因の模式図を示す。



防波堤による波の遮蔽域形成に伴う堆積と侵食

図 2.13 主な侵食要因の模式図

出典：「海岸侵食の実態と解決策」（宇多高明著；山海堂，平成 16 年 5 月）

【崖侵食の要因】

崖侵食は、波浪の営力により長期的に引き起こされるものの、砂浜侵食の要因と同様に、沿岸漂砂の減少による前浜の消失、前面水深の増大による作用外力の増大や、地震動による崖面の崩壊等の影響も考えられる。東日本大震災の強振動による崖面の小崩落や緩み、地盤沈下による崖侵食の進行も確認されている。

(6) 海岸保全施設の整備状況

茨城沿岸では、堤防・護岸をはじめ離岸堤やヘッドランドなど、海岸保全施設がほぼ全域に整備されており、越波対策や砂浜の維持・回復、海食崖の侵食防止が図られている(図 2.14)。しかし、築造後 40 年以上が経過した堤防・護岸が約 75%を占めるなど(図 2.15)、海岸保全施設の老朽化が懸念され、部材や堤体、設置地盤等の健全度に応じた予防保全の導入が必要となってきた。図 2.15 に既設堤防の築年数の状況や老朽化に伴う被害の一例を示す。

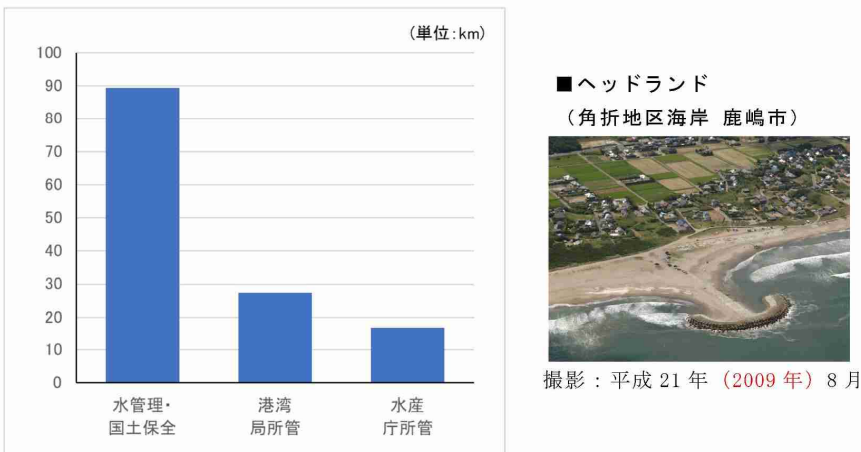


図 2.14 茨城沿岸の所管別の保全施設延長

出典：令和 6 年海岸統計

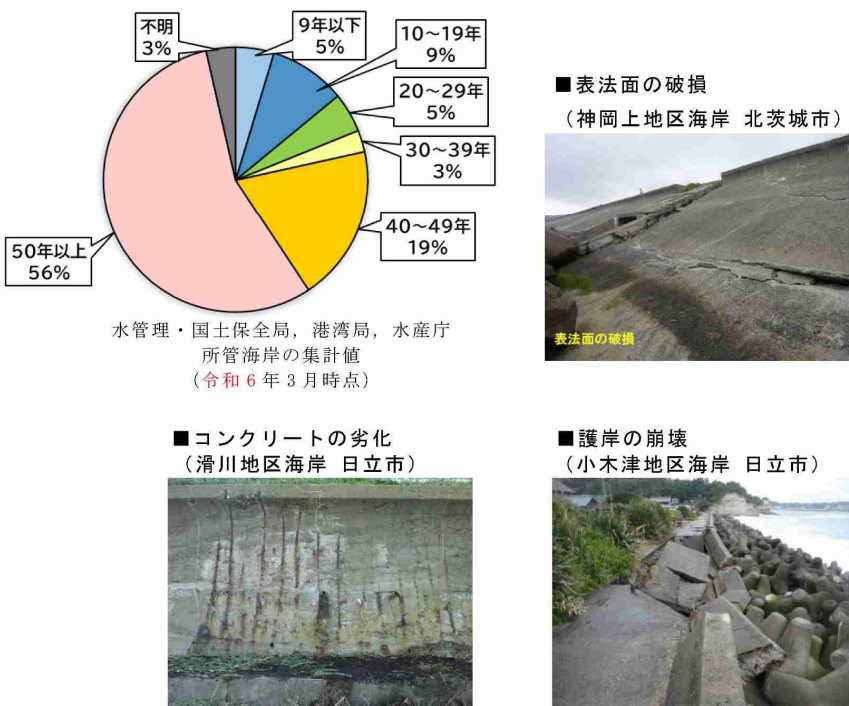


図 2.15 茨城沿岸の海岸堤防の築年数と海岸保全施設の老朽化

(6) 海岸保全施設の整備状況

茨城沿岸では、堤防・護岸をはじめ離岸堤やヘッドランドなど、海岸保全施設がほぼ全域に整備されており、越波対策や砂浜の維持・回復、海食崖の侵食防止が図られている(図 2.14)。しかし、築造後 40 年以上が経過した堤防・護岸が多くを占めるなど(図 2.15)、海岸保全施設の老朽化が懸念され、部材や堤体、設置地盤等の健全度に応じた予防保全の導入が必要となってきた。図 2.15 に既設堤防の築年数の状況や老朽化に伴う被害の一例を示す。

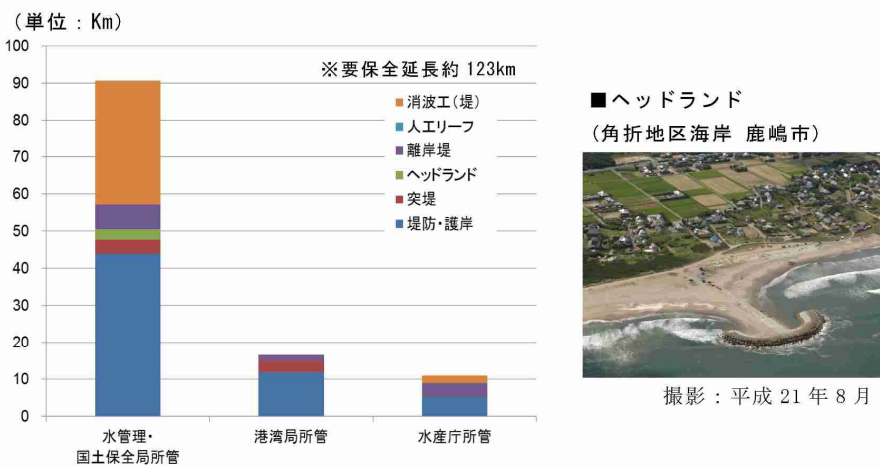


図 2.14 茨城沿岸の所管・施設別の整備延長

出典：平成 26 年海岸統計

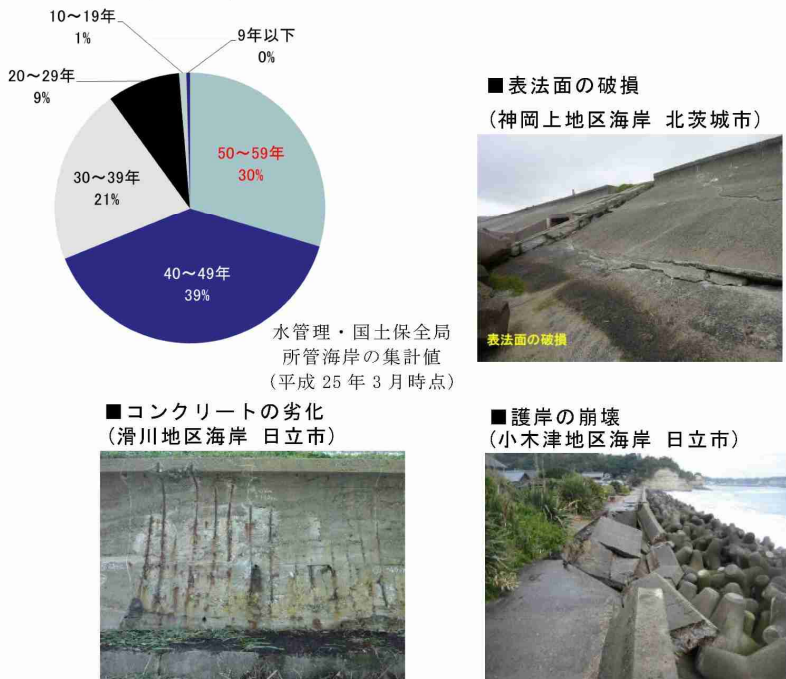


図 2.15 茨城沿岸の海岸堤防の築年数と海岸保全施設の老朽化

2.2 環境面から見た現況と課題

茨城沿岸は、暖帯から温帯に移り変わる位置にあたり、暖帯性生物にとっては北限の生育・生息・繁殖地に、温帯性生物にとっては南限となるなど、特殊で豊かな自然環境が形作られている。

人の手のほとんど入らなかった砂丘には稀少な砂丘植物が生育し、南部の鹿島灘海岸にはアカウミガメも産卵に訪れ、コアジサシの営巣もみられる。中央部から北部にかけて発達している岩礁海岸には豊かな藻類が出現する。海域も多様な魚類が生息し、チョウセンハマグリやアワビ、ヒラメなど魚介類の生育場となっている。また、砂浜・岩礁・海食崖と変化に富んだ茨城沿岸には、多くの海岸景勝地が分布する。(写真 2.9 に茨城沿岸の代表的な海岸の景観と生物を示す。)

一方で、海流や河川の影響を受ける地理的な特性から、毎年、漂着物が押し寄せ、海岸域の豊かな自然環境への影響が懸念される。

さらに、近年は海岸付近の土地利用が進み、海辺やその背後地において多様な利用がなされるようになったことに加え、砂浜の減少、地球規模の環境変化などの原因により、豊かな生物の生息・生育環境や自然景観の悪化が懸念される。

■豊かな自然環境
(日高地区海岸 日立市)



「いばらき自然環境フォトコンテスト入賞作品」
撮影：斉藤一男

■鹿島灘海岸の砂浜
(豊ヶ浜地区海岸 神栖市)



撮影：平成 21 年（2009 年）8 月

■ハマナス



撮影：国府田誠一

■チョウセンハマグリ



写真 2.9 茨城沿岸の代表的な海岸の景観と生物

2.2 環境面から見た現況と課題

茨城沿岸は、暖帯から温帯に移り変わる位置にあたり、暖帯性生物にとっては北限の生育・生息地に、温帯性生物にとっては南限となるなど、特殊で豊かな自然環境が形作られている。

人の手のほとんど入らなかった砂丘には稀少な砂丘植物が生育し、南部の鹿島灘海岸にはアカウミガメも産卵に訪れ、コアジサシの営巣もみられる。中央部から北部にかけて発達している岩礁海岸には豊かな藻類が出現する。海域も多様な魚類が生息し、チョウセンハマグリやアワビ、ヒラメなど魚介類の生育場となっている。また、砂浜・岩礁・海食崖と変化に富んだ茨城沿岸には、多くの海岸景勝地が分布する。(写真 2.9 に茨城沿岸の代表的な海岸の景観と生物を示す。)

一方で、海流や河川の影響を受ける地理的な特性から、毎年、漂着物が押し寄せ、海岸域の豊かな自然環境への影響が懸念される。

さらに、近年は海岸付近の土地利用が進み、海辺やその背後地において多様な利用がなされるようになったことに加え、砂浜の減少、地球規模の環境変化などの原因により、豊かな生物の生息・生育環境や自然景観の悪化が懸念される。

■豊かな自然環境
(日高地区海岸 日立市)



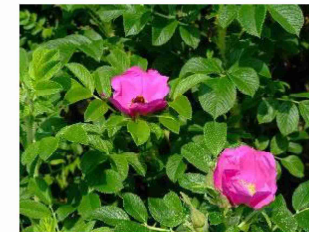
「いばらき自然環境フォトコンテスト入賞作品」
撮影：斉藤一男

■鹿島灘海岸の砂浜
(豊ヶ浜地区海岸 神栖市)



撮影：平成 21 年 8 月

■ハマナス



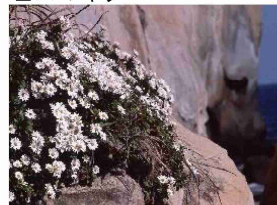
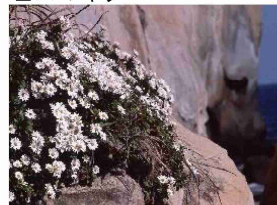
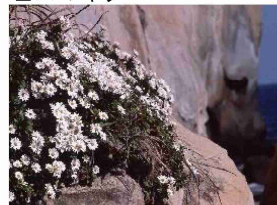
撮影：国府田誠一

■ チョウセンハマグリ



写真 2.9 茨城沿岸の代表的な海岸の景観と生物

改定案（R8.3）	改定前（H28.3）
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 (1) 生物の生育・生息・繁殖環境 ① 陸上植物 茨城沿岸には、自然環境が多く残されており、北茨城市、東海村、ひたちなか市、大洗町、神栖市に特定植物群落（環境省選定）の指定がある（図 2.16）。茨城沿岸は沖合で親潮（寒流）と黒潮（暖流）がぶつかり合っているため、海岸植生は暖地性の植物の北限と寒地性の植物の南限になっている。海食崖の発達した茨城沿岸北部と砂浜の発達した茨城沿岸南部の鹿島灘海岸においては、それぞれの地域特性に順応した植生が形成されている。茨城沿岸の貴重な海岸植生を表 2.3、茨城沿岸で見られる海岸植物を写真 2.10 に示す。 なお、東日本大震災の津波による影響を環境省が調査した結果、特定植物群落である「平潟海岸岸壁植生」、「大津港・五浦の海浜植生」、「東海村の海浜植生」、「村松の自然植生」、「勝田市の海岸植生（現ひたちなか市）」は、浸水を受けたものの影響が認められなかった。 平潟海岸岸壁植生 大津港・五浦の海浜植生 東海村の海浜植生 村松の自然植生 ひたちなか市の海岸植生 大洗海岸の照葉樹林 ■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎地区海岸 鹿嶋市)  ■ウチワサボテン群生地 (太田地区海岸-須田地区海岸 神栖市)  (出典：茨城県教育委員会ホームページ) 図 2.16 特定植物群落 出典：「第 5 回自然環境保全基礎調査 環境省」をもとに作成	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 (1) 生物の生育・生息環境 ① 陸上植物 茨城沿岸には、自然環境が多く残されており、北茨城市、東海村、ひたちなか市、大洗町、神栖市に特定植物群落（環境省選定）の指定がある（図 2.16）。茨城沿岸は沖合で親潮（寒流）と黒潮（暖流）がぶつかり合っているため、海岸植生は暖地性の植物の北限と寒地性の植物の南限になっている。海食崖の発達した茨城沿岸北部と砂浜の発達した茨城沿岸南部の鹿島灘海岸においては、それぞれの地域特性に順応した植生が形成されている。茨城沿岸の貴重な海岸植生を表 2.3、茨城沿岸で見られる海岸植物を写真 2.10 に示す。 東日本大震災の津波による影響を環境省が調査した結果、特定植物群落である「平潟海岸岸壁植生」、「大津港・五浦の海浜植生」、「東海村の海浜植生」、「村松の自然植生」、「勝田市の海岸植生（現ひたちなか市）」は浸水を受けたものの影響が認められなかった。 平潟海岸岸壁植生 大津港・五浦の海浜植生 東海村の海浜植生 村松の自然植生 ひたちなか市の海岸植生 大洗海岸の照葉樹林 ■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎海岸 鹿嶋市)  ■ウチワサボテン群生地 (太田地区海岸-須田地区海岸 神栖市)  (出典：茨城県教育委員会ホームページ) 図 2.16 特定植物群落 出典：「第 5 回自然環境保全基礎調査 環境省」をもとに作成

改定案（R8.3）		改定前（H28.3）																																																					
表 2.3 貴重な海岸植生		表 2.3 貴重な海岸植生																																																					
<table><tr><th colspan="2">貴重な海岸植生</th></tr><tr><td>■平潟海岸の岸壁植生 (平潟漁港海岸背後、北茨城市)</td><td>鶴ノ子岬の常緑広葉樹林はタブ、スダジイ群落の北限に近く、ツワブキやスダジイが混生していることで特徴のある植生になっている。</td></tr><tr><td>■大津港・五浦の海浜植生 (五浦地区海岸―大津地区海岸、北茨城市)</td><td>崖地のクロマツ林と海浜植物によって形成された良好な自然環境は県を代表する景観となっており、環境省の特定植物群落に指定されている。</td></tr><tr><td>■いぶき山イブキ樹叢 (伊師地区海岸、高萩市一日立市十王町)</td><td>分布の北限に近いこの地域でイブキが群生しているのは珍しく、大正11年に国の天然記念物に指定されている。</td></tr><tr><td>■東海村の海浜植生 (東海村)</td><td>豊岡のクロマツ林は自然度が高く、林床には海浜植物などが多数成育し、優れた自然環境を形成している。ピロードテンツキの北限となっている。</td></tr><tr><td>■ひたちなか市の砂丘植生 (常陸那珂港区背後、ひたちなか市)</td><td>かつては砂浜植生とクロマツを主とする広大な自然植生が見られたが、その一部は国営公園内に残されている。</td></tr><tr><td>■酒列磯前神社の自然林 (磯崎漁港海岸、ひたちなか市)</td><td>磯崎漁港海岸背後の社寺林はツバキ、タブノキ、スダジイなどの暖帯性の常緑広葉樹で構成され、市の天然記念物の指定を受けている。</td></tr><tr><td>■殿山のイワレンゲ北限 (那珂湊漁港背後、ひたちなか市)</td><td>湊公園に、このあたりを北限とするイワレンゲがあり、市の天然記念物の指定を受けている。</td></tr><tr><td>■大洗海岸の照葉樹林 (大洗港区海岸、大洗町)</td><td>大洗磯前神社の社寺林はスダジイ、タブノキ、シラカシ等からなる暖帯性常緑樹林であり、この地域の自然植生と考えられており、特定植物群落の指定を受けている。</td></tr><tr><td>■玉沢自然環境保全地域 (玉田地区海岸―勝下地区海岸、鉾田市)</td><td>タブノキ、スダジイ、ヤブツバキなどからなる樹林は海岸地域における代表的な照葉樹林であり、保全地域内の神社には樹齢約300年以上のスダジイの巨木がある。</td></tr><tr><td>■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎地区海岸、鹿嶋市)</td><td>鹿嶋市大小志崎はハマナスの太平洋側の南限地帯であり、国の天然記念物に指定されている。</td></tr><tr><td>■神栖市のウチワサボテン群落 (太田地区海岸―須田地区海岸、神栖市)</td><td>須田浜の砂丘西側にはウチワサボテンの群落が見られる。自生植物ではないが、大きな群落を形成することは珍しく、県の天然記念物に指定されている。</td></tr><tr><td>■神栖市のハマナス自生群落 (豊ヶ浜地区海岸、神栖市)</td><td>豊ヶ浜のクロマツ林内にハマナスが自生しており、町の天然記念物に指定されている。</td></tr></table>		貴重な海岸植生		■平潟海岸の岸壁植生 (平潟漁港海岸背後、北茨城市)	鶴ノ子岬の常緑広葉樹林はタブ、スダジイ群落の北限に近く、ツワブキやスダジイが混生していることで特徴のある植生になっている。	■大津港・五浦の海浜植生 (五浦地区海岸―大津地区海岸、北茨城市)	崖地のクロマツ林と海浜植物によって形成された良好な自然環境は県を代表する景観となっており、環境省の特定植物群落に指定されている。	■いぶき山イブキ樹叢 (伊師地区海岸、高萩市一日立市十王町)	分布の北限に近いこの地域でイブキが群生しているのは珍しく、大正11年に国の天然記念物に指定されている。	■東海村の海浜植生 (東海村)	豊岡のクロマツ林は自然度が高く、林床には海浜植物などが多数成育し、優れた自然環境を形成している。ピロードテンツキの北限となっている。	■ひたちなか市の砂丘植生 (常陸那珂港区背後、ひたちなか市)	かつては砂浜植生とクロマツを主とする広大な自然植生が見られたが、その一部は国営公園内に残されている。	■酒列磯前神社の自然林 (磯崎漁港海岸、ひたちなか市)	磯崎漁港海岸背後の社寺林はツバキ、タブノキ、スダジイなどの暖帯性の常緑広葉樹で構成され、市の天然記念物の指定を受けている。	■殿山のイワレンゲ北限 (那珂湊漁港背後、ひたちなか市)	湊公園に、このあたりを北限とするイワレンゲがあり、市の天然記念物の指定を受けている。	■大洗海岸の照葉樹林 (大洗港区海岸、大洗町)	大洗磯前神社の社寺林はスダジイ、タブノキ、シラカシ等からなる暖帯性常緑樹林であり、この地域の自然植生と考えられており、特定植物群落の指定を受けている。	■玉沢自然環境保全地域 (玉田地区海岸―勝下地区海岸、鉾田市)	タブノキ、スダジイ、ヤブツバキなどからなる樹林は海岸地域における代表的な照葉樹林であり、保全地域内の神社には樹齢約300年以上のスダジイの巨木がある。	■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎地区海岸、鹿嶋市)	鹿嶋市大小志崎はハマナスの太平洋側の南限地帯であり、国の天然記念物に指定されている。	■神栖市のウチワサボテン群落 (太田地区海岸―須田地区海岸、神栖市)	須田浜の砂丘西側にはウチワサボテンの群落が見られる。自生植物ではないが、大きな群落を形成することは珍しく、県の天然記念物に指定されている。	■神栖市のハマナス自生群落 (豊ヶ浜地区海岸、神栖市)	豊ヶ浜のクロマツ林内にハマナスが自生しており、町の天然記念物に指定されている。	<table><tr><th colspan="2">貴重な海岸植生</th></tr><tr><td>■平潟海岸の岸壁植生 (平潟漁港背後、北茨城市)</td><td>鶴ノ子岬の常緑広葉樹林はタブ、スダジイ群落の北限に近く、ツワブキやスダジイが混生していることで特徴のある植生になっている。</td></tr><tr><td>■大津港・五浦の海浜植生 (五浦地区海岸―大津地区海岸、北茨城市)</td><td>崖地のクロマツ林と海浜植物によって形成された良好な自然環境は県を代表する景観となっており、環境省の特定植物群落に指定されている。</td></tr><tr><td>■いぶき山イブキ樹叢 (伊師地区海岸、高萩市一日立市十王町)</td><td>分布の北限に近いこの地域でイブキが群生しているのは珍しく、大正11年に国の天然記念物に指定されている。</td></tr><tr><td>■東海村の海浜植生 (東海村)</td><td>豊岡のクロマツ林は自然度が高く、林床には海浜植物などが多数成育し、優れた自然環境を形成している。ピロードテンツキの北限となっている。</td></tr><tr><td>■ひたちなか市の砂丘植生 (常陸那珂港区背後、ひたちなか市)</td><td>かつては砂浜植生とクロマツを主とする広大な自然植生が見られたが、その一部は国営公園内に残されている。</td></tr><tr><td>■酒列磯前神社の自然林 (磯崎漁港海岸、ひたちなか市)</td><td>磯崎漁港海岸背後の社寺林はツバキ、タブノキ、スダジイなどの暖帯性の常緑広葉樹で構成され、市の天然記念物の指定を受けている。</td></tr><tr><td>■殿山のイワレンゲ北限 (那珂湊漁港背後、ひたちなか市)</td><td>湊公園に、このあたりを北限とするイワレンゲがあり、市の天然記念物の指定を受けている。</td></tr><tr><td>■大洗海岸の照葉樹林 (大洗町)</td><td>大洗磯前神社の社寺林はスダジイ、タブノキ、シラカシ等からなる暖帯性常緑樹林であり、この地域の自然植生と考えられており、特定植物群落の指定を受けている。</td></tr><tr><td>■玉沢自然環境保全地域 (玉田地区海岸―勝下地区海岸、鉾田市)</td><td>タブノキ、スダジイ、ヤブツバキなどからなる樹林は海岸地域における代表的な照葉樹林であり、保全地域内の神社には樹齢約300年以上のスダジイの巨木がある。</td></tr><tr><td>■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎地区海岸、鹿嶋市)</td><td>鹿嶋市大小志崎はハマナスの太平洋側の南限地帯であり、国の天然記念物に指定されている。</td></tr><tr><td>■神栖市のウチワサボテン群落 (太田地区海岸―須田地区海岸、神栖市)</td><td>須田浜の砂丘西側にはウチワサボテンの群落が見られる。自生植物ではないが、大きな群落を形成することは珍しく、県の天然記念物に指定されている。</td></tr><tr><td>■神栖市のハマナス自生群落 (豊ヶ浜地区海岸、神栖市)</td><td>豊ヶ浜のクロマツ林内にハマナスが自生しており、町の天然記念物に指定されている。</td></tr></table>		貴重な海岸植生		■平潟海岸の岸壁植生 (平潟漁港背後、北茨城市)	鶴ノ子岬の常緑広葉樹林はタブ、スダジイ群落の北限に近く、ツワブキやスダジイが混生していることで特徴のある植生になっている。	■大津港・五浦の海浜植生 (五浦地区海岸―大津地区海岸、北茨城市)	崖地のクロマツ林と海浜植物によって形成された良好な自然環境は県を代表する景観となっており、環境省の特定植物群落に指定されている。	■いぶき山イブキ樹叢 (伊師地区海岸、高萩市一日立市十王町)	分布の北限に近いこの地域でイブキが群生しているのは珍しく、大正11年に国の天然記念物に指定されている。	■東海村の海浜植生 (東海村)	豊岡のクロマツ林は自然度が高く、林床には海浜植物などが多数成育し、優れた自然環境を形成している。ピロードテンツキの北限となっている。	■ひたちなか市の砂丘植生 (常陸那珂港区背後、ひたちなか市)	かつては砂浜植生とクロマツを主とする広大な自然植生が見られたが、その一部は国営公園内に残されている。	■酒列磯前神社の自然林 (磯崎漁港海岸、ひたちなか市)	磯崎漁港海岸背後の社寺林はツバキ、タブノキ、スダジイなどの暖帯性の常緑広葉樹で構成され、市の天然記念物の指定を受けている。	■殿山のイワレンゲ北限 (那珂湊漁港背後、ひたちなか市)	湊公園に、このあたりを北限とするイワレンゲがあり、市の天然記念物の指定を受けている。	■大洗海岸の照葉樹林 (大洗町)	大洗磯前神社の社寺林はスダジイ、タブノキ、シラカシ等からなる暖帯性常緑樹林であり、この地域の自然植生と考えられており、特定植物群落の指定を受けている。	■玉沢自然環境保全地域 (玉田地区海岸―勝下地区海岸、鉾田市)	タブノキ、スダジイ、ヤブツバキなどからなる樹林は海岸地域における代表的な照葉樹林であり、保全地域内の神社には樹齢約300年以上のスダジイの巨木がある。	■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎地区海岸、鹿嶋市)	鹿嶋市大小志崎はハマナスの太平洋側の南限地帯であり、国の天然記念物に指定されている。	■神栖市のウチワサボテン群落 (太田地区海岸―須田地区海岸、神栖市)	須田浜の砂丘西側にはウチワサボテンの群落が見られる。自生植物ではないが、大きな群落を形成することは珍しく、県の天然記念物に指定されている。	■神栖市のハマナス自生群落 (豊ヶ浜地区海岸、神栖市)	豊ヶ浜のクロマツ林内にハマナスが自生しており、町の天然記念物に指定されている。
貴重な海岸植生																																																							
■平潟海岸の岸壁植生 (平潟漁港海岸背後、北茨城市)	鶴ノ子岬の常緑広葉樹林はタブ、スダジイ群落の北限に近く、ツワブキやスダジイが混生していることで特徴のある植生になっている。																																																						
■大津港・五浦の海浜植生 (五浦地区海岸―大津地区海岸、北茨城市)	崖地のクロマツ林と海浜植物によって形成された良好な自然環境は県を代表する景観となっており、環境省の特定植物群落に指定されている。																																																						
■いぶき山イブキ樹叢 (伊師地区海岸、高萩市一日立市十王町)	分布の北限に近いこの地域でイブキが群生しているのは珍しく、大正11年に国の天然記念物に指定されている。																																																						
■東海村の海浜植生 (東海村)	豊岡のクロマツ林は自然度が高く、林床には海浜植物などが多数成育し、優れた自然環境を形成している。ピロードテンツキの北限となっている。																																																						
■ひたちなか市の砂丘植生 (常陸那珂港区背後、ひたちなか市)	かつては砂浜植生とクロマツを主とする広大な自然植生が見られたが、その一部は国営公園内に残されている。																																																						
■酒列磯前神社の自然林 (磯崎漁港海岸、ひたちなか市)	磯崎漁港海岸背後の社寺林はツバキ、タブノキ、スダジイなどの暖帯性の常緑広葉樹で構成され、市の天然記念物の指定を受けている。																																																						
■殿山のイワレンゲ北限 (那珂湊漁港背後、ひたちなか市)	湊公園に、このあたりを北限とするイワレンゲがあり、市の天然記念物の指定を受けている。																																																						
■大洗海岸の照葉樹林 (大洗港区海岸、大洗町)	大洗磯前神社の社寺林はスダジイ、タブノキ、シラカシ等からなる暖帯性常緑樹林であり、この地域の自然植生と考えられており、特定植物群落の指定を受けている。																																																						
■玉沢自然環境保全地域 (玉田地区海岸―勝下地区海岸、鉾田市)	タブノキ、スダジイ、ヤブツバキなどからなる樹林は海岸地域における代表的な照葉樹林であり、保全地域内の神社には樹齢約300年以上のスダジイの巨木がある。																																																						
■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎地区海岸、鹿嶋市)	鹿嶋市大小志崎はハマナスの太平洋側の南限地帯であり、国の天然記念物に指定されている。																																																						
■神栖市のウチワサボテン群落 (太田地区海岸―須田地区海岸、神栖市)	須田浜の砂丘西側にはウチワサボテンの群落が見られる。自生植物ではないが、大きな群落を形成することは珍しく、県の天然記念物に指定されている。																																																						
■神栖市のハマナス自生群落 (豊ヶ浜地区海岸、神栖市)	豊ヶ浜のクロマツ林内にハマナスが自生しており、町の天然記念物に指定されている。																																																						
貴重な海岸植生																																																							
■平潟海岸の岸壁植生 (平潟漁港背後、北茨城市)	鶴ノ子岬の常緑広葉樹林はタブ、スダジイ群落の北限に近く、ツワブキやスダジイが混生していることで特徴のある植生になっている。																																																						
■大津港・五浦の海浜植生 (五浦地区海岸―大津地区海岸、北茨城市)	崖地のクロマツ林と海浜植物によって形成された良好な自然環境は県を代表する景観となっており、環境省の特定植物群落に指定されている。																																																						
■いぶき山イブキ樹叢 (伊師地区海岸、高萩市一日立市十王町)	分布の北限に近いこの地域でイブキが群生しているのは珍しく、大正11年に国の天然記念物に指定されている。																																																						
■東海村の海浜植生 (東海村)	豊岡のクロマツ林は自然度が高く、林床には海浜植物などが多数成育し、優れた自然環境を形成している。ピロードテンツキの北限となっている。																																																						
■ひたちなか市の砂丘植生 (常陸那珂港区背後、ひたちなか市)	かつては砂浜植生とクロマツを主とする広大な自然植生が見られたが、その一部は国営公園内に残されている。																																																						
■酒列磯前神社の自然林 (磯崎漁港海岸、ひたちなか市)	磯崎漁港海岸背後の社寺林はツバキ、タブノキ、スダジイなどの暖帯性の常緑広葉樹で構成され、市の天然記念物の指定を受けている。																																																						
■殿山のイワレンゲ北限 (那珂湊漁港背後、ひたちなか市)	湊公園に、このあたりを北限とするイワレンゲがあり、市の天然記念物の指定を受けている。																																																						
■大洗海岸の照葉樹林 (大洗町)	大洗磯前神社の社寺林はスダジイ、タブノキ、シラカシ等からなる暖帯性常緑樹林であり、この地域の自然植生と考えられており、特定植物群落の指定を受けている。																																																						
■玉沢自然環境保全地域 (玉田地区海岸―勝下地区海岸、鉾田市)	タブノキ、スダジイ、ヤブツバキなどからなる樹林は海岸地域における代表的な照葉樹林であり、保全地域内の神社には樹齢約300年以上のスダジイの巨木がある。																																																						
■ハマナス自生南限地帯 (大小志崎地区海岸、鹿嶋市)	鹿嶋市大小志崎はハマナスの太平洋側の南限地帯であり、国の天然記念物に指定されている。																																																						
■神栖市のウチワサボテン群落 (太田地区海岸―須田地区海岸、神栖市)	須田浜の砂丘西側にはウチワサボテンの群落が見られる。自生植物ではないが、大きな群落を形成することは珍しく、県の天然記念物に指定されている。																																																						
■神栖市のハマナス自生群落 (豊ヶ浜地区海岸、神栖市)	豊ヶ浜のクロマツ林内にハマナスが自生しており、町の天然記念物に指定されている。																																																						
出典：「いばらきの海岸植物」（茨城県） ※参考資料に、茨城沿岸で確認された植生の分布状況を示した。		出典：「いばらきの海岸植物」（茨城県）																																																					
<table><tr><td>■オオウメガサソウ</td><td>■スカシユリ</td><td>■ハナハタザオ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>撮影：小幡和男</td><td>撮影：大津昭治</td><td>撮影：小幡和男</td></tr><tr><td>■ハマカキラン</td><td>■ハマギク</td><td>■ハマナス</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>撮影：須田直之</td><td>撮影：大津昭治</td><td>撮影：国府田誠一</td></tr></table>		■オオウメガサソウ	■スカシユリ	■ハナハタザオ				撮影：小幡和男	撮影：大津昭治	撮影：小幡和男	■ハマカキラン	■ハマギク	■ハマナス				撮影：須田直之	撮影：大津昭治	撮影：国府田誠一	<table><tr><td>■オオウメガサソウ</td><td>■スカシユリ</td><td>■ハナハタザオ</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>撮影：小幡和男</td><td>撮影：大津昭治</td><td>撮影：小幡和男</td></tr><tr><td>■ハマカキラン</td><td>■ハマギク</td><td>■ハマナス</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>撮影：須田直之</td><td>撮影：大津昭治</td><td>撮影：国府田誠一</td></tr></table>		■オオウメガサソウ	■スカシユリ	■ハナハタザオ				撮影：小幡和男	撮影：大津昭治	撮影：小幡和男	■ハマカキラン	■ハマギク	■ハマナス				撮影：須田直之	撮影：大津昭治	撮影：国府田誠一																
■オオウメガサソウ	■スカシユリ	■ハナハタザオ																																																					
																																																							
撮影：小幡和男	撮影：大津昭治	撮影：小幡和男																																																					
■ハマカキラン	■ハマギク	■ハマナス																																																					
																																																							
撮影：須田直之	撮影：大津昭治	撮影：国府田誠一																																																					
■オオウメガサソウ	■スカシユリ	■ハナハタザオ																																																					
																																																							
撮影：小幡和男	撮影：大津昭治	撮影：小幡和男																																																					
■ハマカキラン	■ハマギク	■ハマナス																																																					
																																																							
撮影：須田直之	撮影：大津昭治	撮影：国府田誠一																																																					
写真 2.10 茨城沿岸で見られる海岸植物		写真 2.10 茨城沿岸で見られる海岸植物																																																					
28		28																																																					

改定案（R8.3）		改定前（H28.3）	
1	② 岩礁生物	1	② 岩礁生物
2	茨城沿岸の岩礁海岸には、岩礁生態系が構成され多様な海藻と無脊椎生物が	2	茨城沿岸の岩礁海岸には、岩礁生態系が構成され多様な海藻と無脊椎生物が
3	出現する。これらの岩礁海岸では、そこに生息する生物群集に関する学術調査	3	出現する。これらの岩礁海岸ではそこに生息する生物群集に関する学術調査の
4	の蓄積があり、将来にわたってモニタリングの場所として重要な意味も持つ。	4	蓄積があり、将来にわたってモニタリングの場所として重要な意味も持つ。ま
5	また、分類学的に十分な検討を行っていない生物群も少なくないため、学術的	5	た、分類学的に十分な検討を行っていない生物群も少なくないため、学術的な
6	な価値も期待される。これら岩礁生物群集の存在する県下の多くの海岸は、ア	6	価値も期待される。これら岩礁生物群集の存在する県下の多くの海岸はアクセ
7	クセスが容易なことから、環境学習の場としての利用価値も大きい。	7	スが容易なことから、環境学習の場としての利用価値も大きい。
8	代表的な岩礁海岸は、五浦（五浦地区海岸～大津地区海岸：北茨城市）、高戸	8	代表的な岩礁海岸は、五浦（五浦地区海岸～大津地区海岸：北茨城市）、高戸
9	海岸（高戸地区海岸：高萩市）、鵜の岬（伊師地区海岸）、小貝ヶ浜（川尻地区	9	海岸（高戸地区海岸：高萩市）、鵜の岬（伊師地区海岸）、小貝ヶ浜（川尻地区
10	海岸）、高磯（日高地区海岸）、会瀬海岸（会瀬漁港海岸）、河原子海岸はなれ磯	10	海岸）、高磯（日高地区海岸）、会瀬海岸(会瀬漁港海岸)、河原子海岸はなれ磯
11	（河原子港海岸）、水木浜（水木漁港海岸）、久慈浜海岸（久慈漁港海岸：以上、	11	（河原子港海岸）、水木浜（水木漁港海岸）、久慈浜海岸（久慈漁港海岸：以上、
12	日立市）、磯崎海岸、平磯海岸（磯崎漁港海岸、磯崎地区海岸、 那珂湊漁港海岸	12	日立市）、磯崎海岸、平磯海岸（磯崎漁港海岸、磯崎地区海岸、平磯地区海岸）、
13	平磯地区海岸 ）、姥の懐（ 那珂湊漁港海岸那珂湊地区海岸 :以上、ひたちなか市）、	13	姥の懐（那珂湊漁港海岸：以上、ひたちなか市）、大洗海岸（磯浜地区海岸～(仮
14	大洗海岸（磯浜地区海岸～大洗港区海岸：大洗町）などである。	14	称)大洗港区海岸：大洗町）などである。
15	注目すべき海産生物を表 2.4 に、岩礁海岸で見られる生物を写真 2.11 に示	15	注目すべき海産生物を表 2.4 に、岩礁海岸で見られる生物を写真 2.11 に示
16	す。	16	す。
17		17	表 2.4 注目すべき海産生物
18	表 2.4 注目すべき海産生物	18	
19		19	
20		20	
21		21	
22		22	
23		23	
24		24	
25		25	
26		26	
27		27	
28		28	
29		29	
30		30	
31		31	
32		32	
33		33	
34		34	
35		35	
36		36	
37		37	
		38	

注目すべき海産生物	
■北方系の藻類	マツモ（平潟～大洗、特に日立市沿岸に多い）、ウルシグサ（小貝浜、川尻、高磯、会瀬、河原子、水木、特に川尻に多い）、ホソメコンブ（川尻が南限）、アカバ（小貝浜、川尻、高磯、会瀬、河原子、特に川尻に多く河原子は南限地）
■北方系の動物	チシマフジツボ、エゾアワビ、チヂミボラ、ヌノメアサリ、ケガニ、ギスカジカ（同）、サケビクニン（同）、ナガツカ（同）
■南方系の藻類	シロヤハズ（五浦、会瀬）
■南方系の動物 （本県が分布の北限とされる）	サガミミノウミウシ、イシマテガイ、ヨコスジヤドカリ、ホシエイ、ナメハダカ、シロカサゴ、ヘリキボウボウ、マハタ、シロアマダイ、ロウニンアジ、ツボダイ、オキトラギス、シロカジキ、ヨリトフグ、モンガラカワハギ、アカウミガメ
■分布の狭い藻類	オオバツノマタ、ベニヒバ
■帰化（移入）動物	シマメノウフネガイ、ムラサキイガイ
■稀種の動物	ヒメ（会瀬と河原子沖で1990年に本県ではじめて発見）、ミツクリエナガチョウチンアンコウ（国内で記録された例が非常に少ない）、ドクウロコイボダイ（同）。

出典：「日立の磯の動植物」（日立市）

■イワガニ
（大洗町のヘッドランド）



撮影：高塩 修

■マダコ
（**那珂湊漁港海岸平磯地区海岸** ひたちなか市）



撮影：池澤広美

写真 2.11 岩礁海岸で見られる生物

注目すべき海産生物	
■北方系の藻類	マツモ（平潟～大洗、特に日立市沿岸に多い）、ウルシグサ（小貝浜、川尻、高磯、会瀬、河原子、水木、特に川尻に多い）、ホソメコンブ（川尻が南限）、アカバ（小貝浜、川尻、高磯、会瀬、河原子、特に川尻に多く河原子は南限地）
■北方系の動物	チシマフジツボ、エゾアワビ、チヂミボラ、ヌノメアサリ、ケガニ、ギスカジカ（同）、サケビクニン（同）、ナガツカ（同）
■南方系の藻類	シロヤハズ（五浦、会瀬）
■南方系の動物 （本県が分布の北限とされる）	サガミミノウミウシ、イシマテガイ、ヨコスジヤドカリ、ホシエイ、ナメハダカ、シロカサゴ、ヘリキボウボウ、マハタ、シロアマダイ、ロウニンアジ、ツボダイ、オキトラギス、シロカジキ、ヨリトフグ、モンガラカワハギ、アカウミガメ
■分布の狭い藻類	オオバツノマタ、ベニヒバ
■帰化（移入）動物	シマメノウフネガイ、ムラサキイガイ
■稀種の動物	ヒメ（会瀬と河原子沖で1990年に本県ではじめて発見）、ミツクリエナガチョウチンアンコウ（国内で記録された例が非常に少ない）、ドクウロコイボダイ（同）。

出典：「日立の磯の動植物」（日立市）

■イワガニ
（大洗町のヘッドランド）



撮影：高塩 修

■マダコ
（平磯地区海岸 ひたちなか市）



撮影：池澤広美

写真 2.11 岩礁海岸で見られる生物

【藻類】

茨城沿岸の中央部から北部の岩礁海岸には、豊富な種の藻類が出現する。図 2.17 に藻場の分布、表 2.5 に茨城沿岸で確認された主な藻類を示す。潮上帯から潮間帯上部ではアオノリ類やアナアオサ、潮間帯中部から下部ではマツモやヒジキ、潮下帯では、アラメやアズマネジモクが確認されている。写真 2.12 に茨城沿岸で見られる藻類を示す。



図 2.17 藻場の分布

出典：「第 4 回自然環境保全基礎調査 茨城県自然環境情報図」（環境庁，1995 年）

表 2.5 茨城沿岸で確認された主な藻類

藻類	
■潮上帯	アオノリ，イソダンツウ，ハナフノリ，シリオミドロ，ウシケノリ
■潮間帯上部	アナアオサ，フクロフノリ
■潮間帯中部	マツモ，カイノリ，カヤモノリ，イワヒゲ，ウミトラノオ
■潮間帯下部	ヒジキ，イボツノマタ，イソマツ，ハリガネ，エビアマモネ，ユナ
■潮下帯	ワカメ，アラメ，アズマネジモク

出典：「茨城の海の生き物」（茨城新聞社），「茨城県自然博物館総合調査報告書」，「茨城県自然博物館第Ⅱ期第 3 次総合調査報告書」より作成
※参考資料に，茨城沿岸で確認された藻類の一覧を示した。

【藻類】

茨城沿岸の中央部から北部の岩礁海岸には豊富な種の藻類が出現する。図 2.17 に藻場の分布、表 2.5 に茨城沿岸で確認された主な藻類を示す。潮上帯から潮間帯上部ではアオノリ類やアナアオサ、潮間帯中部から下部ではマツモやヒジキ、潮下帯では、アラメやアズマネジモクが確認されている。写真 2.12 に茨城沿岸で見られる藻類を示す。



図 2.17 藻場の分布

出典：「第 4 回自然環境保全基礎調査 茨城県自然環境情報図」（環境庁，1995 年）

表 2.5 茨城沿岸で確認された主な藻類

藻類	
■潮上帯	アオノリ，イソダンツウ，ハナフノリ，シリオミドロ，ウシケノリ
■潮間帯上部	アナアオサ，フクロフノリ
■潮間帯中部	マツモ，カイノリ，カヤモノリ
■潮間帯下部	ヒジキ，イボツノマタ，イソマツ，ハリガネ，エビアマモ
■潮下帯	アラメ，アズマネジモク

出典：「茨城の海の生き物」（茨城新聞社），「茨城県自然博物館総合調査報告書」より作成
※参考資料に，茨城沿岸で確認された藻類の一覧を示した。

■アラメ群落
(水木 日立市)



撮影：中庭正人

■エビアマモ



撮影：中庭正人

写真 2.12 茨城沿岸で見られる藻類

表 2.6 に昭和 36 年 (1961 年) 以降の県海岸海藻調査の結果を示した。この表から 1970 年代から潮間帯の海藻の種類が減少傾向にあることがうかがえる。

表 2.6 藻類の種数の変化

調査期間	緑藻	褐藻	紅藻	合計種数
昭和 36 年 (1961 年) - 昭和 50 年 (1975 年)	16	36	112	164
昭和 50 年 (1975 年) - 昭和 56 年 (1981 年)	17	36	113	166
昭和 56 年 (1981 年) - 平成 4 年 (1992 年)	18	28	88	134
平成 9 年 (1997 年) - 平成 11 年 (1999 年)	13	23	77	113
平成 24 年 (2012 年) - 平成 26 年 (2014 年)	13	21	74	108

出典：「茨城県海岸海藻調査」, 「茨城県自然博物館第Ⅱ期第 3 次総合調査報告書」

五浦地区海岸 (北茨城市) や磯浜地区海岸 (大洗町) では, 東日本大震災後の調査によると震災前と同様の海藻相が残っている状況が確認されている (写真 2.13)。

■アラメ群落
(水木 日立市)



撮影：中庭正人

■エビアマモ



撮影：中庭正人

写真 2.12 茨城沿岸で見られる藻類

表 2.6 に 1961 年以降の県海岸海藻調査の結果を示した。この表から 1970 年代から潮間帯の海藻の種類が減少傾向にあることがうかがえる。

表 2.6 藻類の種数の変化

調査期間	緑藻	褐藻	紅藻	合計種数
1961-1975	16	36	112	164
1975-1981	17	36	113	166
1981-1992	18	28	88	134

出典：「茨城県海岸海藻調査」

五浦地区海岸 (北茨城市) や磯浜地区海岸 (大洗町) では, 東日本大震災後の調査によると震災前と同様の海藻相が残っている状況が確認されている (写真 2.13)。

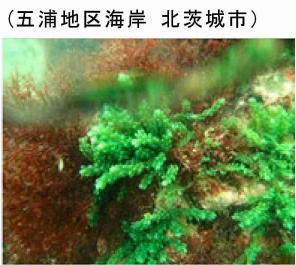
■紅藻ハリガネとタンバノリ (水深 1m 付近)



■褐藻アラメ (水深 5m)
(磯浜地区海岸 大洗町)



■緑藻フサイワズタ (水深 3m 付近)



■紅藻ツノムカデとハリガネ (水深 1m)
(磯浜地区海岸 大洗町)



写真 2.13 東日本大震災後に確認された海藻相

出典：「平成 25 年度東北太平洋沿岸地域生態系監視調査報告書」
(環境省自然環境局生物多様性センター, 平成 26(2014)年 3 月)

改定案（R8.3）		改定前（H28.3）
1	■紅藻ハリガネとタンバノリ（水深 1m 付近） ■緑藻フサイワズタ（水深 3m 付近） （五浦地区海岸 北茨城市） （五浦地区海岸 北茨城市）   ■褐藻アラメ（水深 5m） ■紅藻ツノムカデとハリガネ（水深 1m） （磯浜地区海岸 大洗町） （磯浜地区海岸 大洗町）   写真 2.13 東日本大震災後に確認された海藻相 出典：「平成 25 年度東北太平洋沿岸地域生態系監視調査報告書」 （環境省自然環境局生物多様性センター，平成 26（2014）年 3 月）	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		

32